

会員だより

フランス旅行記
“南仏からパリ”

「こだわりのフランス浪漫紀行 10 日間」とのタイトルツアーに 6 月 23 日〜7 月 2 日まで行ってきました。浪漫紀行とは辞書によると、夢や冒険への憧れを満たす事があること、何と大袈裟なと思っ
ていましたが、いざ参加してみると、憧れというより現実的にツアー 23 人の中、最高齢の姉妹で体力的に冒険であったかもしれない。でも、ローマ時代から現代まで文学・美術・哲学・軍事・土木・宗教・法制度... において想像を絶する高度な文化を目の当たりに接する事が出来たのは夢の実現だったでしょう。

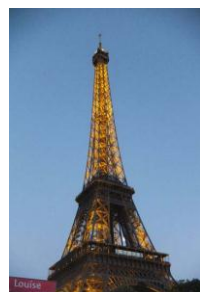


したニースからスタートしましたが、各地にローマ時代から高い文化の遺跡が多くみられました。

一日約 800 Km のバス走行で、パリから西 60 Km に位置するモンサンミッシェル修道院の敷地内にあるホテルに着いた時は中世に迷いこんだみたいになりました。細かい路地と石畳、すぐ迫りくる城壁の様な僧院の壁とレトロなレストラン。対岸でバスを降り、敷地内用の電気バスに乗り換え、歩いてホテルと見学をしました。深い信仰ゆえに出来た建物というが、余りの広さに迷いそうでした。ただ

城郭や教会や居住部分には古い文化に誇

残念だったのは海の中に古城のように佇む写真がよく紹介されていますが、砂洲の中に道のような橋が出来ていたことでした。最後の二晩はパリ市内のホテル。文化と革命の象徴たるものをヴェルサイユ宮殿やルーブル美術館で通訳ガイドと芸術員からしっかりと説明を受けました。夜はエッフェル塔の見えるレストランでフランス料理を味わい、あとセーヌ川遊覧を楽しみました。



正装で参加をとコメントがあったので、8 日間フランスなスタイルで参加していた男性達が急にネクタイ姿で現れましたが、それ程でもないかとまたまたネクタイをとる次第。料理の写真を見てもこの程度。日本の料理に勝るものなしと実感しました。熟年世代の旅行は気楽さが一番です。ブランド物の土産を携えて帰国された方も多かった

四季彩

平成 24 年 6 月の三室戸寺の蓮観音札所第十番の参拝に行ってきました。本堂の前の蓮池に咲き始めた「蓮」を見つけました。蓮の開花は 7 月が最盛期で、早朝に音を発して咲くのを、カメラに収めるべく大勢の人が訪れます



源氏物語第十条「浮舟」のはかない物語でも有名なお寺です。宇治は歴史の深い地域です。平等院は有名な寺院ですが、対岸のお寺やお宮も訪れる人が多いとか。宇治上神社へもお参りしてきました。 T・N

ようです。私にはブランド物は関係なく、私自身旅行に行く事が冒険であり、その土地の様子を知ることが夢としてこれからも生きて行きたいものです。 S・U

廬山寺の「源氏の庭」と梨木神社

大式三位を育て、源氏物語を執筆しました。現在の本堂は何回も火災に遭い改築されています。天台宗円浄宗の大本山で、正しくは廬山天台講寺と言います。中には源氏物語に関する、見事な貝合わせや源氏物語絵巻が展示されていました。さて本堂の前面に目をやると、源氏の庭と称される庭が広がっています。平安朝の庭園の「感」を表現した白砂と苔の庭です。そして今、満開の桔梗の花が咲いています。曲水のようにかたどられた白砂の流れの中に島のように苔がおかれその中に数株ずつの桔梗が咲き乱れています。整然とした庭にすっきりと立つ数

百本の紫の花、淋しい花 (楓輪 HP もご覧ください) 三條実満公と三條実美公をまつる神社です。今回はやぶ蚊にあいませんでした。 F・M

